

陸側遮水壁タスクフォースの設置について

平成 25 年 6 月 28 日
汚染水処理対策委員会事務局

1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所 1 ~ 4 号機の廃炉を進めていく上で、日々約 400 立米発生している汚染水の問題は、最も深刻な課題の一つである。汚染水の量を抜本的に低減させるためには、地下水の流入量を抑制する必要がある。このため、本年 4 月より開催された「汚染水処理対策委員会」の取りまとめにおいて、東京電力が取り組んでいる地下水バイパス、建屋近傍のサブドレンによる地下水位の管理等の対策に加え、追加的な対応策も含めて重層的に施策を進め、信頼性の高い全体計画とする必要があり、凍土方式による遮水壁の設置が適切であるとされた。

今後、遮水壁について、その早期実現等のため、土木、水位管理の専門家に加えて、凍結工法の専門家が参画する実務的なタスクフォースを汚染水処理対策委員会の下に設置して、概念設計、施工計画の策定等の評価、進捗管理等を行う。

2. 陸側遮水壁タスクフォースの構成は、次のとおりとする。なお、必要に応じて、メンバーの追加を行う。

主査: 大西 有三 関西大学 特任教授、京都大学 名誉教授
西垣 誠 岡山大学大学院 教授
伊藤 謙 摂南大学 教授
石川 達也 北海道大学大学院 准教授
藤田 光一 国土交通省国土技術政策総合研究所 研究総務官
丸井 敦尚 (独)産業技術総合研究所 地図資源環境研究部門 総括研究主幹
鎌田 博文 (一社)日本建設業連合会 電力対策特別委員会 委員
赤川 敏 低温圈工学研究所 代表
事務局: 新川 達也 資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室長